

口 絵

浅草吉原図巻（陣内論文 図35）

作者未詳 17世紀末～18世紀初頭頃
奈良県立美術館所蔵

新吉原へいたる舟運ルート的有力な起点となっていた柳橋から新吉原までの道程に四季折々の光景を散りばめて描いた作品。隅田川には、屋形舟（川一丸）・花火舟・物売り舟（御すい物いろいろ）、隅田川沿岸には、柳橋・浅草御蔵（首尾の松を眺めている舟上の客、道側の塀）・屋形舟が繫留されている船宿・川側を向いた駒形堂・竹が多数立て掛けられた浅草材木町・待乳山聖天、陸路に入ってから日本堤・衣紋坂（高札場）・大門（三つ道具を備えた番屋）・新吉原（伏見町、江戸町一・二、揚屋町、堺町、角町、京町）、などが描かれている。